

島根県ボクシング連盟

これまでのあゆみ

島根県アマチュアボクシング連盟（現島根県ボクシング連盟）は昭和49年7月に小玉耕平島根大学教授を会長に発足した。昭和49年10月には日本アマチュアボクシング連盟に加入、昭和50年5月にはくにびき国体の会場となる益田市にも連盟が設立され体制が強化された。

当初は競技人口が少なく選手不足が悩みの種であったが、昭和56年に浅見孝信選手（全日本選手権2位）が加わるなど徐々に強化され、同年少年チームが「びわこ国体」に初出場した。それ以来県勢は、成年か少年のどちらかが中国地区代表の座を保ち、昭和61年「かいじ国体」では成年チームが8位に入賞するなど活躍した。

平成6年以降の国体以外での主な成績は、平成6年度第48回全日本高等学校選手権バンタム級で福原卓司選手（益田高校）が優勝、平成12年第53回全日本高等学校選手権ミドル級で大隈隆明選手（江の川高校）が準優勝、平成29年第16回全日本女子ボクシング選手権大会ライトフライ級で岩田更加選手（出雲北陵高校）が優勝などである。



岩田更加選手（左）と長澤誠二監督

現在の状況

日本アマチュアボクシング連盟が日本ボクシング連盟に変更したことから、本連盟も島根県アマチュアボクシング連盟から島根県ボクシング連盟へと名称を変え現在に至っている。

会長は島根県議会議員池田一氏、副会長には出雲市議会議員今岡真治氏と島根県議会議員中村絢氏、元理事長飯塚彰氏が就任している。

本連盟に所属しているのは、出雲西高校ボクシング部、シュガーナックルボクシングジム松江店、大池ボクシングジム、出雲ボクシングクラブ、益田ボクシングジム等で、各ジムにおいて選手を目指す者と健康志向の者が一緒に汗を流している。

これから

中国地区の競技レベルは全国的にも高いことから、平成10年から25年間、島根県選手は本国体に出場していない。競技人口も少なく、練習場所も限られている。しかしながら島根県・島根県スポーツ協会の支援を受け、令和5年3月には2021年世界選手権ウェルター級金メダリストの岡澤セオン選手を招聘した練習会の実施する等、選手強化・体制強化を続けており、その結果、令和4年度第2回全日本UJフレッシュボクシング大会中学生女子48kg級で金丸由良選手（出雲市立河南中学校）、中学生男子68kg級で兵主瑠聖選手（松江市立湖北中学校）が優勝、令和5年度第10回全日本UJボクシング王座決定戦中学生男子68kg級で兵主瑠聖選手が準優勝、令和5年度第75回全日本社会人選手権大会男子フライ級で中尾勇悟選手（大池ボクシングジム）が3位入賞、令和5年度2回全日本女子ジュニア選手権大会女子ライト級で金丸桜花選手（出雲西高校）が3位入賞するなどアンダージュニアを中心に徐々に成果が上がってきている。また、廣澤倫明副理事長（シュガーナックルボクシングジム松江店）が本連盟初の日本ボクシング連盟A級審判員（レフリー）の資格を取得するなど体制強化も進みつつある。

また、本連盟では、令和4年度からパンチを当てないマスボクシングの大会も開催しており、令和5年には島根県スポレク祭として第2回島根県マスボクシング大会を開催、実戦競技の選手登録をしていない健康志向の10歳代から70歳代の者が参加するなど、生涯スポーツとしてのボクシングの普及も行っている。

本連盟は、今後も2030年島根かみあり国スポに向けて、ボクシング競技の普及・発展に努めていく所存である。



兵主瑠聖選手（右）と廣澤倫明副理事長



世界チャンピオン招聘事業（岡澤セオン選手＝前から2列目中央）